

ニュースレター (vol. 3) 平成 24 年 11 月発行

NPO 法人あきた菜の花ネットワーク

〒015-0801 秋田県由利本荘市美倉町 30 由利本荘市コミュニティ体育館内
TEL&FAX : 0184-44-8625 E-mail : tetsu1187pure@yahoo.co.jp



秋も徐々に深まり、冬の足音が聞こえ始めている今日この頃です。みなさまいかがお過ごしでしょうか？

さて、今年も残すところ 2 か月を切りました。振り返る意味でも、当ネットワークのここ数カ月の活動の一部をお知らせいたします（H.P.にも随時掲載しておりますので併せてご覧ください）。

◎菜種栽培説明会（小坂町）

7月13日（金）、小坂町交流センターにて菜の花栽培講習会が開催されました。ネットワーク会員の小坂町では、毎年、菜種播種前に全町民を対象とした講習会を実施しています。講習会では、秋田県立大学の頼泰樹先生から「秋田県における菜種多収技術の確立にむけて～菜の花から菜種の多収栽培へ～」というテーマで講演が行われました。

頼先生からは役に立つ情報がたくさん示されましたが、その目玉はなんといっても「追肥の重点化」。



元肥をそれほどやらなくても（窒素 5kg/10a）、追肥をしっかりとやれば（窒素 15～20kg/10a）収量が数倍になるというもの。尿素であれば 2 袋（3,000 円程度）を春先の雪解けの時期に播けばそれで OK。「たったそれだけで良いの？」という農家さんの驚きの表情が印象的でした。

頼先生のお話は大変分かりやすく、本当にためになるので、お話を聞きたいという方はぜひネットワークまで！

◎視察受け入れ（東京農業大学）

9月12日（水）、耕作放棄地対策や 6 次産業についての調査・研究を目的に、東京農業大学の学生さんたちが視察に来ました。当日は、秋田ニューバイオファームの鈴木社長、秋田県立大学の渡部先生、ネットワークの鈴木専務理事が、バイオファームおよびネットワークの取り組みの紹介や学生さんたちからの数々の質問に対応しました。



◎ブース出展「松風祭」（秋田県立大学学校祭）



10月13・14日（土日）、県立大学秋田キャンパスで行われた松風祭にブースを出展し、菜種油を販売しました。菜種油を購入された方の中には、『昨年も買いました～』と常連（リピーター）になってくださっている方もおり、菜種油ファンが増えつつあることを感じました。

ご購入いただいたみなさま・またいろいろ手配してくださった松風祭実行委員のみなさま、本当にありがとうございました！

<ニュースレター新企画「この人に聞く！」（第3回）>

あきた菜の花ネットワークの事務局メンバーが、秋田を元気にするため日々奮闘している方から話を伺い、先進的・独創的な取り組みやアイデアを学ぶと共に、会員の皆様にお伝えいたします。第3回目は、由利本荘市立矢島小学校の校長、金（こん）利紀さんです。金校長には、学校のあるべき姿、学校と地域とのつながり、地域を元気にするための菜の花の取り組みなど、たくさんの興味深いお話を伺いました。

金校長の熱い想いが会員の皆様に少しでも伝わればと思います。



「夢なら今ここにある！」：由利本荘市立矢島小学校 校長 金利紀さん

○ネットワーク事務局（以下、事務局）：

まず、ご出身を教えてください。

○金利紀校長（以下、金校長）：

秋田県旧象潟町、現にかほ市に生まれました。高校まで「秋田の湘南ボーイ」として地元象潟で過ごし（笑）、大学時代は秋田市に住んでいました。卒業後、旧本荘市において小学校教員を勤め、現在に至ります。

○事務局：

校長先生になられたのはいつですか。

○金校長：

49歳の時です。校長になって7年目を迎えますが、就任当初は「若い自分に校長が務まるのか？」「校長として自分は何をやるべきか？」等々、思いきり悩みました。悩み抜いてたどり着いた結論が「地域に愛されなければ学校の存在意義はない」ということでした。

○事務局：

なぜそう考えたのですか。

○金校長：

当時、学校が地域からどんどん離れていっているように感じていました。学校側が「学校（自分）さえ良ければ」「子どもたちさえ良ければ」という、せまい考えにとらわれ、公務員そして学校の本分を忘れているように思えたのです。公務員だからこそ相手のことを考える必要があります。学校の相手（お客）とは、子どもたちや保護者、彼らの住む地域であり、さらにご先祖様も含まれます。子孫繁栄を祈っているご先祖に学校はどのように報いるのか、今はまだ生まれていない将来の子どもたちにどのように応えていくのか。地域という「ヨコ系」、歴史という「タテ系」を意識し、研ぎ澄まされた「お客様感覚」を持ちながら、学校運営を行っていく必要があると思います。

○事務局：

なるほど。

○金校長：

地域の方は、力不足の私たち学校に「地域の将来を担う子ども」をあずけてくれる本当にありがたい存在です。地域への感謝の気持ちを忘れず、私たち公務員は前例主義にとらわれず、公務員以上の働き

をする必要があります。職場の先生方によく伝える言葉があります。「私たち教員の報酬は給料ではない。子どもたちや親の喜ぶ姿こそが報酬なのだ」と。

○事務局：

金校長の熱い想いが結実した取り組みの一つが、「コミュニティスクール(地域運営学校:以下 CS)」ですね。

○金校長：

その通りです。この矢島小学校は県内で2番目となるCSの指定を受けました。この周辺地域も過疎化高齢化が進んでいますが、まだ地域のコミュニティはしっかり残っています。今のうちにコミュニティの力を学校運営に活かす体制を整え、「地域とともに歩み、地域に愛される学校」を創りたいと考えています。

○事務局：

そうした中で取り組まれたのが、マスコミにも取り上げられたひまわりプロジェクトですね。

○金校長：

はい。矢島小学校では、学校そばにある旧矢島高校跡地(約30畝)にひまわりを植える「ひまわり1万本プロジェクト」を昨年から始めました。小学校の目の前にある高校跡地が放っておかれた姿を見て「もったいない。何とかできないものか」と思ったのが、取り組んだきっかけです。私の個人的な思いから始まったのですよ(笑)。

○事務局：

そうなのですか。でもなぜ菜の花ではなくひまわりだったのですか(笑)。

○金校長：

夏の暑い中でも太陽に向かって咲くひまわりは「元気の象徴」と考えたからです。また、ひまわり畑は子どもたちに元気を与える“パワースポット”になると思いました。昨年の「3.11」以降、私たちは命のはかなさと大切さを学びました。人間いつ死ぬか分かりません。一生懸命取り組み、記憶に残ることをやり遂げることが子どもたちにとって非常に大切です。

こうした強い思いにも後押しされ、先生方、そしてCSにも投げかけました。

○事務局：

今、学校ではやるべき課題も多く、ひまわりプロジェクトに時間を割くのは、難しい点もあったのではないですか。

○金校長：

はい。矢島小では、課外活動ではなく「矢島ひまわりプロジェクト」として全学年において教育メニューとして位置づけ、他教科の学習と絡めて取り組んでいます。

○事務局：

それはどういうことですか。

○金校長：

4年生算数では「面積のはかり方と表し方」、6年生国語では「短歌を作ろう」など、学年毎にテーマを設けて、ひまわりプロジェクトを実践や教育の場として活用しています。文科省の指導要領にもきちんと従っていますよ（笑）。

○事務局：

なるほど。とても楽しそうな授業ですね。一方で、先生方からの反対などはありませんでしたか。

○金校長：

先生方の理解と協力がなくてはこのような取り組みはできませんでした。先生方とひまわりプロジェクトの「教育的位置づけ」について、いろいろ話し合いました。その過程で、私が考えていた以上に、先生方からたくさんの提案が出されました。その時、改めて、子どもたちの教育について先生方は真摯に向き合っていることを感じましたし、この取り組みを通じて、校長の役割の一つである「教諭の心に教育者としての火をつける」ことができたのではないかと考えています。

○事務局：

金校長の教育への熱い思いと類い希な行動力、そしてそれを実現するための段取り力、全てに感服してしまいます。改めてお聞きしたいのですが、学校教育にとって最も大切なことは何でしょうか。

○金校長：

子どもたちにできるだけ多くの感動体験をしてもらうことです。先に触れましたが、学校は子どもたちを育てることで地域に報いなければなりません。そして、子どもを育てるということは、子どもの心を育てることに他なりません。秋田の子どもが優れているのは、その心が優れているからです。自分を律することのできる強い心を持っているからこそ、成績も優れていると思います。

○事務局：

教育していく上で、何か気をつけていることはありますか。

○金校長：

「自分たち（先生）も失敗を恐れず、成長し続けよう」と先生方と話しています。実は、ひまわりの種を蒔くため土地を耕したときに、大量の瓦礫や石

などが出てきました。撤去しても撤去しても、数日後にはまた山のように出てきました。「こんな土地では、ひまわりは咲かないかもしれない…」と落ち込む私に、研究主任の先生が「恵まれた土地であれば、ひまわりは咲いて当然。このような環境で咲いたら、素晴らしいじゃないですか」と声をかけてくれました。また地域の方からも「蒔かない種は決して出ない。蒔かないと命は誕生しない」と励まされたことで、私も一度はあきらめかけた気持ちが奮い立ちました。

○事務局：

結果、見事なひまわりが咲いた訳ですが、8月28日に開催された「満開を祝う会」には、地域の方や、幼稚園児・高校生など多くの方がいらしてましたね。その時、金校長が、「夢ならここにある！遠い将来ではなく、今ここに！」と挨拶していたことがとても印象的でした。

○金校長：

あの言葉は、矢島小学校の生徒だけでなく、高校生に向けたメッセージでもありました。夢は都会や遠い将来でしか叶えられないものではなく、今ここ（矢島）にもあるということを伝えたかったのです。

○事務局：

ところで、9月18日には、矢島小学校の生徒さんたちが、桃野地区（矢島町）で、菜種の種まきをされますが、ネットワークとの関わられたのはいつからですか。

○金校長：

以前、直根小学校の校長だった時に「グリーンツーリズム」に取り組んでいたこともあり、4年ほど前に、地域活性化シンポジウムにパネリストとして参加しました。その時、同様にパネリストとしていらしていた専務理事の鈴木さんと知り合いました。

○事務局：

ネットワークの今後の活動について、ご意見・ご提案などお願いします。

○金校長：

先ほども「成長」「進化」という話をしましたが、進化していけないと、人は離れていきます。進化することで、賛同する人が集まっていくと思います。

○事務局：

本日はお忙しいところ、貴重なお話をありがとうございました。

☆☆☆【事務局所感】お話を伺って☆☆☆

金校長への聞き取りはとても有意義なものでした。自分の置かれているポジションにおいてやるべきことを真摯に考え、決めたら即行動。失敗だって「成長・進化」のプロセス。そして、小説『もしドラ』にもあった「お客様は誰か」という感覚。私たちの活動を進めるためのヒントがてんこ盛りでした(W)

<会員の活動紹介>～農業法人 エコファームの取り組み～

菜の花被災地支援活動*

平成 24 年 9 月 9 日、ネットワーク会員の農業法人 エコファーム（代表：佐藤誠さん）が中心となり、東日本大震災で、被害を受けた宮城県石巻市に菜の花の種を蒔きました。

佐藤代表は、震災の 2 日後から被災地に食料や物資を届けるなどの支援を行っていました。そして、現地での支援活動がきっかけとなり、「菜の花で被害を受けた地域を彩り、地域住民を元気づけたい」との思いが生まれたそうです。

今回、大仙市や五十嵐商会（クボタ農機販社：仙台市）の協力のもと、秋田からのボランティア 38 名を含む、50 名ほどで、石巻市の市有地に菜の花の種を蒔きました。種を蒔いた付近の食堂に勤める方からは、「楽しみにしている」などの喜びの声が聞かれました。

その後（10 月上旬）、佐藤代表が現地を訪問したところ、菜の花は元気に青々と育っていたそうです。来春には、現地でイベントを開催したいと佐藤代表は話されていました。きっと黄色い菜の花が、みなさんの心を癒してくれることと思います。

菜種油レシピ紹介

秋の夜長のお供に！（にんじんのシフォンケーキ）

秋田の美味しい野菜と菜種油を使ったレシピを紹介いたします。

（レシピ協力：食育 NPO「おむすび」）

学校祭などブースを出展した際、菜種油と鳥海高原産のにんじんを使ったシフォンケーキを来場のみなさまに試食していただきました。「おいしいっ！」と大好評でしたので、ぜひ、みなさんも挑戦してみてください♪

◆鳥海高原では、菜の花だけではなく、ニンジンやレタスなどの栽培にも取り組んでいます。



鳥海高原で育てた人参です。

大きくておいしい人参ができました！

～材料～

- ・卵 5個
- ・小麦粉 100g
- ・砂糖 80～100g
- ・にんじんのすりおろし 1/3カップ
- ・菜種油 大さじ3
- ・塩 ひとつまみ
- ・バニラエッセンス 少々



～【にんじんのシフォンケーキ】作り方～

- 1) 小麦粉は 3 回ほどふるいにかける。
卵は白身と黄身に分ける。砂糖も半量に分けておく。
- 2) ボールに白身と塩ひとつまみを入れ、砂糖も 3 回に分けて入れながら、角がたつくらいまで泡立てる。
- 3) 別のボールに黄身を入れ、砂糖を 3 回に分けて泡立てる。その中に菜種油を少しずつ入れながら混ぜ、泡だて器のあとが残るくらいまで混ぜて、すりおろしたにんじんを混ぜる。
- 4) 小麦粉を 3 回に分けて、さっくり混ぜる。泡立てておいた白身を加え、さっくり混ぜ、バニラエッセンスを少量ふり入れる。シフォンケーキの方に流し込み 2～3 度トントンと型をテーブルに落とし空気を抜いて落ちつかせる。
- 5) 180℃に温めておいたオーブンで 30～40 分焼く。焼きあがったら、ケーキの型を逆さまにして冷ます。しっかり冷めてから型から取り出し、好みの大きさに切り分ける。

<編集後記>

〇隔月発行を目標としていたニュースレターですが、諸事情により発行が遅くなってしまい、大変申し訳ございませんでした。本紙発行はネットワークの活動の柱の一つですので、今後の定期発行に尽力してまいります。会員の皆様にお伝えしたいこと、アピールしたいことがあれば、事務局まで遠慮なくご連絡ください。（渡部）

〇イベントのブース出展などで、「菜種油ファン」の方にお会いする機会が増えてきました。一般的な油と比べると「高っ！」という印象を持たれがちな菜種油ですが、値段の理由や、おいしさ等をぜひ知ってほしいです。12 月 1 日（土）由利本荘市エコフェスティバル（会場：由利本荘市総合体育館）にも出展しますので、みなさん遊びにいらしてください～！（宮崎）